

【特別支援学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名		佐賀県立中原特別支援学校(鳥栖田代分校)									
1 前年度 評価結果の概要		○令和6年度校務分掌組織において、自立活動部を「自立活動部」と「研究部」に分離することにより、自立活動の推進、授業づくりの充実等、専門性の向上を図る。 ○進路指導については、引き続き実習等の丁寧な説明や情報の提供を行い、キャリア教育の充実、発展を目指す。 ○特別支援教育のセンター的機能の充実については、関係機関との連携を図りながら、巡回相談や研修会を実施し、地域に定着してきた。今後もニーズの把握や分析をしながら、継続して取り組んでいく。									
2 学校教育目標		一人一人に応じた指導・支援をとおして、児童生徒がもっている能力や可能性を最大限に伸ばし、明るくすこやかで豊かな心をもち、自立し社会参加できる児童生徒の育成を目指す。									
3 本年度の重点目標		「児童生徒の豊かな生活と成長の保障」 ①専門性の更なる向上と、教育活動への反映 ②個に応じた進路指導の充実 ③特別支援教育のセンター的機能の充実									
4 重点取組内容・成果指標											
中間評価											
5 最終評価											
主な担当者											
(1)共通評価項目											
重点取組		具体的取組									
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	○児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着 ○児童生徒のニーズに応じた指導・支援をとおして、学んだことが身に付いている授業が行われていると答える保護者80%以上	○児童生徒の的確な実態把握と知的障害の各教科等の学習状況を踏まえた上で、学力の定着につながる授業ができたと答える教員80%以上 ○児童生徒のニーズに応じた指導・支援をとおして、学んだことが身に付いている授業が行われていると答える保護者80%以上		・個別の指導計画の位置づけ及び知的障害の各教科等の内容と「学びの履歴」を踏まえた計画の作成・活用・評価についての職員研修を実施する。 ・各教科等の内容を基に、児童生徒の知的障害の状態等に応じて、小学部は6年間、中学部は3年間を見通して、具体的な指導内容を設定する。 ・「児童生徒がもっている能力や可能性を最大限に伸ばす」ことを意識した授業づくりを行うとともに、PDCAサイクルに基づいて授業改善を図る。 ・複数の視点から児童生徒の指導や評価を客観的に行えるよう、年3回個別の指導計画検討会をもつ。		・道徳的な価値を育むことを学級経営上の目標とする。 ・日常生活の指導や生活単元学習の時間において、特別の教科道徳の内容を適切に取り扱う。		・			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校生活全般において、「思いやりや豊かな心」を育むことを意識して指導・支援を行ったと答える教員80%以上 ○学校生活を通して、児童生徒は「思いやりや豊かな心」を育んでいると思う保護者80%以上 ○「いじめ」の早期発見、対応、未然防止、解消のために他職員や保護者と連携して、児童生徒の指導・支援にあたることでできていると答える教員80%以上 ○日常的な連絡、面談、調査等で、児童生徒の生活状況を学校(担当)と共通理解できていると答える保護者80%以上		・いじめの未然防止、早期発見に対応ができるよう、教職員の報告・連絡・相談体制を整える。 ・年2回の保護者アンケートを実施するとともに、毎日の保護者との会話や連絡帳を活用して情報の共有に努める。 ・人権・同和教育に関する研修を行う。		・児童生徒の意欲を喚起できるよう、授業等で児童生徒が「できた」「わかった」ことを一人一人丁寧に評価する。 ・児童生徒との適切な関わり方について、適時、マルチリポートメントに関する資料等を共有する。		・			
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○早寝早起きをし、毎朝朝食を食べると回答する児童生徒80%以上 ●「健康に良い食事をしている」と回答する児童生徒80%以上		・生活習慣や食事に関する単元を設定する。 ・保護者や関係機関と連携し、児童生徒の食に関する実態を把握する。 ・保健だよりを年8部発行する。		・児童生徒の意欲を喚起できるよう、授業等で児童生徒が「できた」「わかった」ことを一人一人丁寧に評価する。 ・児童生徒との適切な関わり方について、適時、マルチリポートメントに関する資料等を共有する。		・			
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実 ○地域の人々と活動を共にする交流及び共同学習の積極的な推進	○鳥栖田代分校は、地域の特別支援学校のセンター的役割を果たすための専門性が担保されていると回答する保護者及び職員70%以上 ○居住地校交流、田代小学校や地域との交流は、有意義なふれあいの場となり、豊かな人間性を育むことにつながったと答える保護者及び職員80%以上		・地域の関係機関や教育委員会主催の会議や研修への参加を徐々に増やし、情報収集や協働体制づくりに努める。 ・地域の要請に応じて、関係機関と連携しながら巡回相談を実施する。 ・地域支援、関係機関との連携に生かせるよう、特別支援教育の専門性や障害者施策に関する知見を高める。		・実態に応じて、年に数回、居住地校交流や地域との交流を図る場を設定し、全職員で協力して取り組む。 ・記録やチェック表を活用し、効果的な打ち合わせを行う。 ・地域の方と連携した交流行事を実施する。		・			
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守することで、「遵守できた」と回答する職員が80%以上		・年間5回以上の「完全定時退勤日」を設定する。 ・「ノー会議デー・定時退勤推進日」を設定するとともに、会議の時間や方法などについて効率化の推進に向けた工夫を行う。 ・時間外在校等時間が45時間を超える職員については管理職による面接を実施する。		・児童生徒の意欲を喚起できるよう、授業等で児童生徒が「できた」「わかった」ことを一人一人丁寧に評価する。 ・児童生徒との適切な関わり方について、適時、マルチリポートメントに関する資料等を共有する。		・			
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組		具体的取組									
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
○教育DXの推進	○教育活動におけるICT等の機器活用 ○デジタル化による効率的な校務の実施	○ICT機器等を用いて、児童生徒の教科等の学習の理解を高めたり、児童生徒が学習等に取り組める環境をつくり出すことができたと答える教員、保護者70%以上 ○デジタル化により校務の効率化が図れていると答える教員70%以上		・ICT活用に係る職員研修の実施、ヘルプデスク(現地員)との連携、校務分掌担当者によるサポートに取り組む。 ○研修等のオンデマンド化、アンケートや提出物のデジタル化を進める。		・児童生徒の意欲を喚起できるよう、授業等で児童生徒が「できた」「わかった」ことを一人一人丁寧に評価する。 ・児童生徒との適切な関わり方について、適時、マルチリポートメントに関する資料等を共有する。		・			
○自立活動の推進	○自立活動に係る専門性の向上と、授業実践の充実	○自立活動の在り方を考え、指導内容・方法の工夫を行い、児童生徒一人一人の心身の調和的発達を基盤を培うことができたと回答する教職員80%以上		・自立活動の指導計画を作成や指導内容に関する事例研修を行う。 ・知的障害の自立活動に関する先進的な取組や実践事例、研修の情報等を収集し、紙上等で伝達する。		・児童生徒の意欲を喚起できるよう、授業等で児童生徒が「できた」「わかった」ことを一人一人丁寧に評価する。 ・児童生徒との適切な関わり方について、適時、マルチリポートメントに関する資料等を共有する。		・			
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育											
5 総合評価・次年度への展望		・ ・ ・									